

「どやばいら」「危ないだに～」

遠州弁標語で事故防止

浜松・東区

浜松市の東区協議会交通安全委員会と交通安全協会浜松東地区支部が、遠州弁の交通安全標語を作り、事故防止の啓発活動を展開している。「どやばいら」「危ないだに」。同市は10万人当たりの人身事故発生件数が20政令市で7年連続最多で、東区は行政区別で最も発生率が高い。敬老の日（10日）が近づく中、「事故に遭わずに長生きを」との願いを込める。

遠州弁標語は高齢者事故を減らすと同委員会が発案した。3年前から標語や注意点を載せたチラシを敬老の日前後に配布し、本年度からは区民だよりにも標語の掲載を始めた。

標語は毎年更新し、今年は

高齢者啓発ひとひねり

交通安全指導員9人が20首を作った。新人の小橋未那美さん（21）＝警田市＝は街頭指導中に一時停止をしない自転車の多さに驚いた。その思いを、すくひどい様子を表す時によく発する「どやばいら」を使って「どやばいら」一時停止 多すぎると表現した。

「反射材、暗い夜道でばか目立つ」を考えた矢崎真衣さん（28）＝浜松市東区＝は、さん28＝浜松市東区＝は、「すく」など強調を意味する遠州弁「ばか」を使い、日没が早くなる時期の反射材利用を促す。

遠州弁を使った交通安全標語の一例

- 青信号 ちゃつと（すぐに）渡るは 危ないだに～
- 近道と ななめ横断 危ないに
- ほいあんだ そこは渡っちゃいかん場所
- 反射材 着けなきゃそんそん 光るだに～
- 信号機 きいない（黄色い）時は 止まること



遠州弁の交通安全標語について意見を交わす交通安全指導員＝浜松市中区の交通安全協会浜松東地区支部会館

2016年9月16日 朝刊

①交通安全標語の中の遠州弁はどれでしょう。

②方言を使うと、どんな感じがしますか。

③交通安全標語を自分の住んでいる土地の方言で作ってみましょう。

年 組 名前

（小学校高学年・中学校・高校 道徳・総合）